

# 人とかかわって楽しくやりとりのできる子

松 下 敏 代

## はじめに

F男を理解するには、彼が自閉症であり、コミュニケーション障害がその中心的課題であることをまず認識しておきたい。人との関係を結ぶことが困難であり、コミュニケーション・スキル（注4）やことばなどが少ないという実態は、彼の障害からくるものが大きい。

F男の場合、自分の意思を表現することに難しさがあるが、日常生活場面での人の指示に応じて行動することは優れている。そこで、指示の受け入れによって人と関係を結ぼうとする芽ばえを育てながら、簡単な要求や意思表示の基本的なコミュニケーション・スキルを身につけることにより、このテーマに多少なりとも迫ってみたい。

## 1 プロフィール

### (1) 生 育 歴

- ・昭和55年2月11日生 13歳9か月 中学部2年生男子 父、母、本人、妹の4人家族
- ・出産正常 首の座り4か月 歩き始め1歳4か月。この頃から、反応の乏しさに気付く。
- ・2歳2か月から8か月間、M保育所に通所。妹の出産に伴い、家庭保育となる。
- ・3歳頃、児童相談所により自閉的傾向と診断される。
- ・4歳、5歳と心身障害児通園施設に通園
- ・昭和61年4月、本校小学部に入学
- ・昭和62年2月、児童相談所より自閉症と診断される。
- ・平成4年4月、本校中学部に入学、現在に至る。

### (2) 諸検査による実態

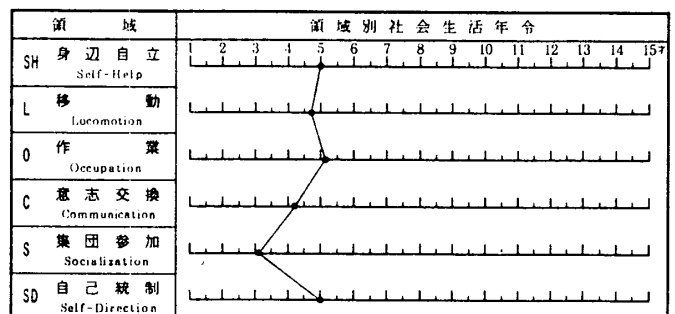
#### ・津守式乳幼児発達検査

運動や生活習慣の発達は6歳レベルにあるが、社会性に関わる探索、社会、言語の発達に弱さがみられる。

運 動	探 索	社 会	生活習慣	言 語
6 : 0	3 : 6	3 : 0	6 : 0	4 : 0

#### ・S-M社会生活能力検査 SA 4 : 6

身辺自立、移動、作業は5歳レベルにある。コミュニケーションと関わりの深い意志交換、集団参加に弱さがみられるが、自己統制の能力は高い。このことは、日常生活において指示行動がよくとれることとも一致する。



S-M社会生活能力検査

### (3) 行動の特性

日常生活場面での簡単な指示に対応して行動できる。パターン化された日常生活における動作や行動もスムーズである。独語やエコラリアが強く、会話の成立が困難である。要求表現はハンドリングが多いが、ことばでの要求もたまにはある。拒否は、「いらんだか。」と言って表現することがある。簡単な漢字まじりの単語や文の読み書きができるが、文の意味を理解することは困難である。

困った時や自分の思いと異った時などに、大声で泣きながら跳びはねるようなパニックをおこすことがある。衣服の前ボタンをはめるのを嫌いはめない。飛行機の音がすると外へ飛び出し、見えなくなるまで飛行機をながめている。食べ物の好き嫌いがあり、給食の残しが多い。指しゃぶりがあがる。

## 2 取り組みの構想

### (1) 指導仮説

指示行動のスムーズさ、自己統制力のよさは、人と関係を結ぶ上で大きなメリットである。なぜなら、人を受け入れる芽が育っていると考えられるからである。一方、意思表示の面では、エコラリアやハンドリングが大きな壁となりコミュニケーションを狭めている。

そこで、メリットをベースにして人への関心をつなぎながら、エコラリアやハンドリングを、視覚的手掛かり（写真やカード）を用いた指さしでの選択という手段に変えていくことにより意思表示が図れないかと考えた。こうして、自分の思いを少しでも伝えようとし、人との関わりやコミュニケーションを拡げていくことができるのではないかと考えた。

### (2) 指導方針

- ・音声言語だけでなく、視覚的手掛かりである写真やカードもコミュニケーション手段として用いることにより、意思交換を図る。
- ・自分の要求や意思が伝わったことへの満足感や喜びを経験させ、コミュニケーション意欲の向上を図る。
- ・人と関係を結ぶ場面を、意図的に設定する。

## 3 指導の実際

### (1) 課題別学習

主に意思交換に必要なコミュニケーション・スキルの基礎を身につける場と考えた。

- ① 目 標 ・「はい」「いいえ」の意思表示が、カードの選択によりできるようになる。
- ② 内 容 ・友達の顔写真と名前を書いたカードのマッチングを図る。  
・「これは、〇〇さんですか？」の問いに対し、「はい、そうです。」「いいえ、ちがいます。」のどちらかのカードを選択し、ことばで言う。
- ③ 経 過

友達の顔写真を教材に選んだのは、人を意識させたい意図からである。幸いにも、友達への関心が見られだし自分からよく友達に手を出しに行く姿を見かけた時期にこの学習を始めた。友達の顔

写真と名前カードのマッチングは、すぐに正確にできた。F男はことばで表現をしないので分からずにいたが、人の顔と名前を正確に理解していることを、この活動で知ることができた。この頃、母親より、「今までは、いくら家族の写真を見せてもだれがだれなのか分からなかったのに、最近正しく言えだした。」との報告を受けた。

「これは、〇〇さんですか？」の問いに対し、「はい」「いいえ」のカードを選択することは難しかった。F男の頭の中には〇×の回答は既にあるのだが、それを「はい、そうです。」「いいえ、ちがいます。」のことばとして表現するという理解につまずいた。そこで、判断が〇なら「〇はい、そうです。」×なら「×いいえ、ちがいます。」のカードを選択して表現することをモデルで示し、それを模倣する学習を繰り返した。そして、この関係が分かりだすと、カードの選択は比較的容易にできた。しかし、「これは、〇〇さんですか？」の問いに対し、「これは、〇〇さんですか？」のエコラリアが必ずあり、聞いている人と聞かれている人の関係理解を図る必要がある。

現在は、具体的な視覚的手掛かりで、「はい」「いいえ」の解答がはっきりしているものという条件での選択ができたところであり、抽象的な意思や判断の必要とされる選択は今後の課題である。また、日常生活への般化も重要な課題である。

## (2) 生活単元学習

課題別学習でつけたスキルの般化を図るとともに、活動を通して人との関係を結び、生活経験を拡大していく場と考えた。

- ① 目 標 ・ 集団活動における人との関係を拡げ深める。  
・ 「はい」「いいえ」の意思表示の般化とコミュニケーション意欲の向上を図る。
- ② 内 容 ・ 野外炊飯（5月） ミニキャンプ（7月） 大山林間学校（10月）
- ③ 経 過

どの単元も集団活動における人との関わりや意欲的で楽しい活動を重視しており、人との関係を結んでいく必要場面は多くあった。F男は、教師や友達の指示を聞いて活動することがよくでき、その活動を楽しむことはできた。しかし、自分の意思を表現する場面では参加が困難だった。生活場面では、きまりきった回答である「はい」「いいえ」ではなく、抽象的判断や意思を問われることが多いので、現在のF男にとっては難しかった。そこで、多種の選択肢の中から、自分のしたいことや欲しい物を選ぶといった学習も必要になった。

F男の意思表示の般化の困難さは感じながらも、集団活動時に他学年の友達に手を出して注意を



写真とカードのマッチング



「はい」「いいえ」のカードの選択

引こうとしたり、友達の名前を覚えてことばで表現したりする姿が見られだした。これは、人との関係を結ぼうとする意欲の向上ととらえたい。

また、大山林間学校の写真を見ながら、その経験に基づくことばが出てきた。生活経験が記憶として残り、ことばで表現されていることは新しい芽ばえである。右の写真を見て、「ウマ。エサ」と言い、馬にエサをやった経験を話した。



馬にエサをやるF男

### (3) 日常生活の指導

具体的な生活場面に即しつつ、コミュニケーション・スキルの習得と般化を図る場として考えた。

特に要求表現は、F男自身の生活の必要性から発せられるものであるから、日常生活場面で重点的に取り扱った。F男の要求表現を見逃さず、ハンドリングではなく「～してください。」ということばのパターンにあてはめていくことにした。「カセットテープを貸してください。」「みかん（欲しい食べ物）をください。」という要求は、ハンドリングからことばに変わっていった要求である。

また、困った時やいやな時にパニックを起こすのではなく、「いやです。」「やめてください。」「わかりません。」と言えれば、パニックを避けることができると思われる場面も多々ある。このことも、その場に即したことばのモデルを示すことにより、ことばで表現できるようにしたいと試みている。

あいさつの習慣、独語をしてよい時といけない時の区別、カレンダーの理解、一日のでき事の思い起こしも、毎日の生活に即しつつ今後も継続して進めていきたい。

### (4) 家庭との連携

生活ノートの家庭欄には、毎日のF男の家庭での様子や母親の思いが詳細に記されている。親子で、地域社会へも積極的に参加している。今後も、家庭との連携を充実させたい。

## 4 考察と今後の課題

人を受け入れようとする芽ばえをベースに置きながら、意思表示面でのコミュニケーション・スキルの習得と般化を図り、人と楽しくやりとりできることを目指して取り組んできた。

対人関係面では、顔と名前が一致して名前を言ったり、自分から友達に働きかけたりといった姿がよく見られ、人への関心の高まりととらえることができる。

一方、視覚的手掛かりによる意思表示は、まだ一步を踏み出した状態ではあるが、今のところ有効なコミュニケーション手段の一つになり得ると思っている。今後は、より抽象的な意思表示や、複数の選択肢から自分の意思を選択するといったこと、また、「あなた」と「わたし」の関係をとらえることなどが課題となってくるであろう。そのためには、F男の生活上の必要感を配慮に入れたより緻密なプログラムの作成が急がれる。また、これらのコミュニケーション・スキルの般化が重要であり、家庭との連携を密にとりながらF男の生活に生かせるよう、まわりが配慮していく必要がある。